

令和元年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立 勸興小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1)教科に関する調査(国語、算数)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2)生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

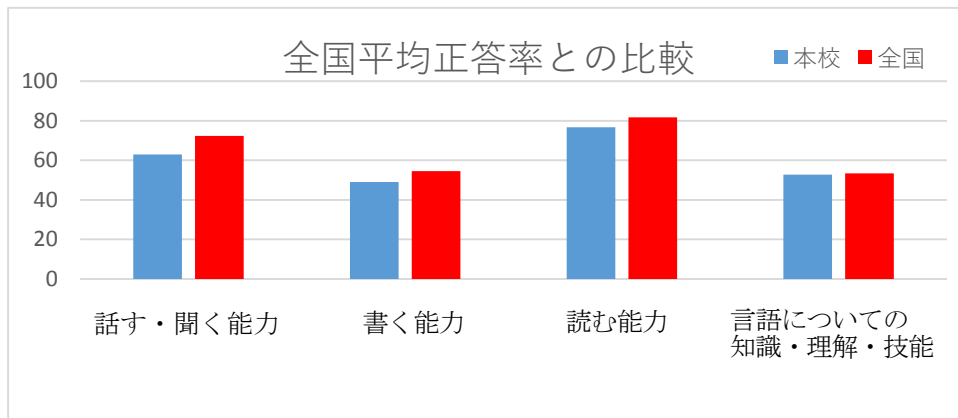
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は小学6年生では国語と算数(中学3年生では国語、数学、英語)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果



4領域のうち3領域で全国平均正答率を下回り、「言語」領域は、ほぼ全国平均と同等である。分布の割合を見ると、全国平均よりも下位が多い。無回答率は、「話す・聞く」領域で全国平均よりも高い。

(2) 成果と課題

今回の調査では、特に「話す・聞く」の領域で課題が見られた。国語科だけでなく他教科等の授業でも、話し手の意図を捉えながら聞いたり、自分の理解を確認するために質問したりする場を設定する必要がある。また、「書く能力」「読む能力」を育成するために、条件（簡単に、詳しく、まとめて等）に合う文章を書いたり、文章の内容を的確に押さえて読んだりする練習が必要である。さらに、「対象」「関心」を漢字で書く問題の正答率が低かったため、意味を考えながら漢字を書く練習をする必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業の中で、かかわり合い「かいわタイム」を取り入れ、考えを表現して意見交流をしながらコミュニケーション力を高めていきます。
- 低学年から、主語、述語、修飾語などを意識して、正しく読み取ったり読み手に分かりやすい文章を書いたりする活動に取り組みさせます。
- 低学年から、設問に書かれた条件や教材文の大事な部分に線を引きながら読む習慣を付けさせて、大事なところを落とさずに読む力を育成します。
- 同音異義語に注意して、漢字を文中で正しく使う指導を工夫します。
- 4、5、6年では、月曜の朝に年16回「すくすくテスト（宿題→テスト→再テスト）」を実施して、言語事項の定着を図ります。
- 金曜の朝のチャレンジタイムでは、全校で基礎・基本のプリントに取り組みます。

【ご家庭では】

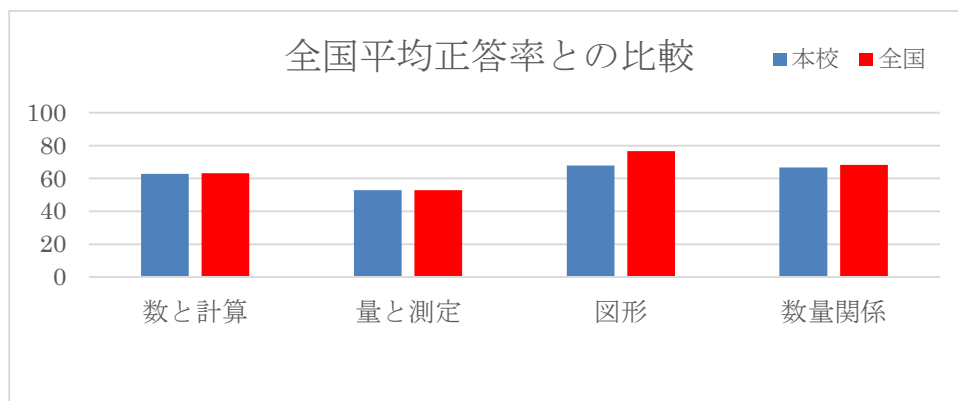
音読の習慣付け 毎日、お子様の音読に耳を傾けてください。繰り返し音読をすることにより、文の構成、言葉の意味などを理解し、文節毎に正しく区切ってすらすらと読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語だけでなく全教科の学力向上に不可欠です。

親子での会話 会話をする際には、最後までしっかりと聞き、語尾まではっきりと話すことを心がけてください。また、共感したり根拠を尋ねたりして、お互いの考えを交流することにより、話す・聞く能力が養われます。

読書の充実 様々なジャンルの本にふれる機会をつくってあげてください。読書は、語彙力や表現力を高めて知識を広げることにつながります。

2 算数

(1) 結果



4領域のうち3領域は、ほぼ全国平均と同等の結果である。「図形」領域は全国平均を下回った。合計点の分布の割合は全国平均と同様の傾向である。無回答率は、考え方を説明する問題で全国平均よりも高い。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「立式すること」「グラフの読み取り」が本校の強みとして現れた。一方、図形（三角形、四角形、ひし形、台形）の理解や面積に関する問題は正答率が低く、図形をずらす、回す、裏返す、組み合わせる等の操作が苦手であるという課題が見られた。そのため、具体物を用いた活動を通して、図形についての実感的な理解を深めさせる必要がある。また、考え方を説明する問題の無回答率が高いため、設問に書かれた条件を正しく読み取り、その条件に合わせて書く練習をする必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業の中で、かかわり合い「かいわタイム」を取り入れ、式や図を示しながら自他の考え交流させることにより、理解を広げたり深めたりします。
- 低学年から、文章問題の大事な部分や設問の条件に線を引きながら読む習慣を付けさせます。
- 「図形」領域の学習では、実際に図形を操作する活動を通して、図形の構成要素やそれらの位置に着目させて、図形についての理解を深めさせます。
- TTによる少人数指導や細やかなノートチェックなど、日々の指導を通して個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。
- 4、5、6年では、月曜の朝に年16回「すくすくテスト（宿題→テスト→再テスト）」を実施して、基礎・基本の定着を図ります。
- 金曜の朝のチャレンジタイムでは、全校で基礎・基本のプリントに取り組みます。

【ご家庭では】

宿題やテスト、ノートの確認 学習内容や理解度を把握し、励ましや称賛の言葉を掛けていただくことが大切です。

生活場面で算数を使う経験の蓄積 「生活習慣や学習習慣に関する調査」の結果を見ると、「算数の勉強は好きだ」と回答した児童は全国平均を5.5ポイント上回っていました。算数の授業で学習したことを生活の中で使い、便利さや面白さを実感することによって、算数への興味・関心が高まり、学習への意欲につながります。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識等について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	96.3	95.3
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	77.4	81.4
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	88.7	91.6
読書は好きですか	84.9	75.0
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。	96.2	95.2
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	77.3	79.0
学校のきまりを守っていますか。	92.5	92.5
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	94.3	97.1

「朝食の習慣」は全国平均よりも高いが、「早寝、早起きの習慣」は、全国平均よりも低い。生活習慣の向上が学力向上の一端を担うことを改めて周知していく必要がある。読書が好きな児童の割合は全国平均よりも10%高く、日常的に読書に親しんでいることが分かる。

挑戦心や規範意識について肯定的な回答をした児童の割合は、ほぼ全国並みである。しかし、「いじめはどんなことがあってもいけない」という意識は全国平均よりも低い。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校 %	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	79.3	71.5
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。		
「1時間以上」	62.2	66.1
「30分以上、1時間より少ない」	32.1	24.1
「30分より少ない」	1.9	7.6
「全くしない」	3.8	2.3

計画を立てて家庭学習に取り組んでいる児童の割合は、全国平均よりも高い。しかし、家庭学習の時間については1時間未満の児童が37.8%もいる。「家庭学習・生活の心得」の内容を再確認させて、家庭学習の質的・時間的な充実を目指す必要がある。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 「音読」「漢字の練習」「プリントやドリル」等の宿題を毎日出しています。
- 高学年では自主学習にも取り組ませ、お手本になるノートを掲示して質を高めていきます。中学年にも広げていきます。
- 6月初めに配付した「家庭学習・生活の心得」の内容を、必要に応じて繰り返し指導します。

【ご家庭では】

早寝、早起き、朝ごはんの継続 良い生活習慣を続けることが大切です。

学習時間と読書時間の確保 「テレビやネットの視聴時間」や「ゲームの時間」を減らして「学習時間」と「読書時間」を増やすように声を掛けてください。

「家庭学習・生活の心得」の確認 「家庭学習・生活の心得」の内容を親子で再確認し、称賛や励ましの言葉を掛けながら、望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けさせてください。時間や場所を決めて学習をする習慣を付けることにより、集中力が養われます。